

屋久島レク森の先進地調査を実施

2月12日から14日の3日間において、熊本県県北広域本部林務課、菊池市商工観光課及び当署関係者の9名で、レクリエーションの森の維持管理体制が構築されている屋久島の先進地調査を実施しました。

先進地調査は、屋久島森林管理署岩本清文次長、屋久島森林生態系保全センター黒木興太郎所長、山部国広自然再生指導官、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会担当者等の案内により、1日目は屋久杉自然館と大川の滝風景林を、2日目は屋久島自然休養林の白谷雲水峡とヤクスギランド内、荒川登山口で森林軌道の状況を調査しました。

また3日目は昨年竣工したばかりの屋久島町新庁舎内において、屋久島町観光まちづくり課と屋久島レクリエーションの森保護管理協議会及び屋久島署・保全センター担当者との意見交換会を開催し、事前に質問していたレク森施設の維持管理、安全対策や入林基準、協力金等について回答頂きながら、活発な意見交換を行いました。

当署としては、今回の調査は民国連携の取組として熊本県と菊池市への支援を行うことが出来、県・市担当者からは、「先進的な取組を行っている屋久島の事例が非常に参考となった」等の感想が聞かれ、先進地調査の成果が本年から新しいビジターセンターがリニューアルオープンする菊池溪谷の今後の様々な維持管理に反映されることが期待されます。



（白谷雲水峡での説明状況）



（意見交換会の様子）